

~KENSYU~

谷地南部小学校
ICT 研修だより
2023. 1. 12
No.7 文責 伊藤

職員室前廊下にて

先日、スキー用品を置きに来校し、書き初め展の作品をご覧になっている4年生の保護者の方と話す機会がありました。(昨年、姉を担当しましたが) 児童の書き初めの結果などを中心に話をしていると、話題を変えて感謝の言葉をいただきました。

「先生、ありがとうございます。タブレットにマット運動の発表動画があったので、体育の授業の様子がよくわかって安心しました。」

以前のKENSYUでも話題にあげましたが、2学期に体育で取り組んだマット運動の評価場面を、授業者が一人ずつ見るのではなく、ロイロノートに提出することで評価の材料を確保しました。教員側や子ども側の利点は、No.6 で書いた通りです。今回見えてきたのは、家庭としての利点です。学校評価でも、一部で「開かれた学校になっていない(様子がよくわからない)」といった回答が出ていました。もちろん、校長先生はじめ各先生方は、様々な手立てを打って家庭に学校の様子が伝わるようにと考えてくださっています。

しかし、教科によっては、やはり伝わりにくい部分があったのかもしれませんが。国・算・社・理などの教科であれば、教科書やノート、日々の家庭学習の様子からある程度の学校での姿が見えるのかもしれませんが。図工であれば、過程はわからないにしても、作品を持ち帰ることで学習した内容や出来栄えが分かります。では、体育や音楽などの場合どうでしょう？めあてや振り返りなどは文字で残して見てもらっても、技や演奏・歌唱の様子などは、なかなか家庭に伝わりづらいような気がします。

そこで「ロイロノート」です。ロイロノートは、考えを広げたり深めたりするのに大いに役立つ(シンキングツールなど)他に、「残す」といった部分でも大きな力を発揮します。提出するかどうかに関わらず、カードを作成して残してさえおけば、児童も保護者もいつでも見ることができます。一つ、学校評価が上がる要因にもなるかもしれませんね。

(もちろん、児童には毎日持ち帰って家の人に見せることを指導し、親に対してもタブレットの使い方を伝える必要があるとは思いますが・・・)